

長万部キャンパスでの全人教養教育および地域連携への取り組み Liberal Arts Education and Regional Collaboration on Oshamambe Campus

東理大基礎工 竹内 謙

Tokyo Univ. Sci., Ken Takeuchi

E-mail: ken@rs.kagu.tus.ac.jp

1. 長万部キャンパスの概要

東京理科大学基礎工学部は、1987年に設立以来、1学部2キャンパス制をしき、1年次は北海道の長万部キャンパスで全寮制全人教育を、2年次以降は東京都の葛飾キャンパス（2012年までは千葉県野田キャンパス）で専門教育を行なってきた。毎年、基礎工学部の全1年生約300名は、入学式に参加した後、日本武道館を出発し、バスと飛行機を乗り継いで長万部町へ向かう。基礎工学部1年生は全員長万部学寮に入寮し、4名1部屋で約9ヶ月にわたって、友人と寝食を共にしつつ学業や課外活動に勤しむ。

2. 全寮制全人教育の一端

4月の入寮式から2月の退寮式までに学生が体験できる様々な事柄の主なものは以下の通りである。4月：「日本の大学では唯一の春スキー授業」、5月：「写万岳山開き」、「日本一遅いさくら祭り」、「日本北限のブナ林（黒松内町）の巡検」、6月：「農業実習」、7月：「町最大のイベントのケガニ祭り」、8月：「夏休みを利用しての近隣市町村への農業支援（厚沢部町、今金町）」、9月：「有珠山と特別天然記念物の昭和山（壮瞥町）の巡検」、10月：「1年生のみで企画する学寮祭」、11月：「遊楽部川支流（八雲町）で鮭の遡上見学」、12月：「町民と学生が参加するコンサート」、「大学生が小学生に科学を教えるワクワク体験塾」、1月：「スキー授業」、2月：「退寮パーティー」。先輩の居ない長万部キャンパスでは、学内の学生行事の多くは1年生のみで企画し、学外の行事の多くには学生がボランティアとして参加する。これらの様子と合わせて、特徴的な教育カリキュラムに関しても、本講演で報告する。

3. 地域連携への取り組み

長万部キャンパスにおける全寮制教育の大きな目的は、人と自然のふれあいを学ぶとともに、自主性・協調性・倫理観を涵養することである。そのため、便利な都心部ではなく、人口約1万人（1987年設立当時）ながら、四季折々の大自然と地域との触れ合いのある長万部町に、キャンパスを構えた。しかし、長万部町も高齢化と人口減少に直面しており、2019年6月の町の人口は約5200人と、設立時の約半分である。キャンパス設立以来、町と様々な連携を行なってきた東京理科大学は、長万部町の活性化と連携強化を目指して、2011年には5年間限定で学内に「長万部地域社会研究部門」を設立し、様々な研究や事業を行なってきた。この部門はすでに終了したが、研究や事業には今も継続しているものや、そこから派生し新たに開始されたものもある。本講演では、これらの連携のうちの幾つかに関して詳細に報告する。